
放課後時間

岩崎星空羅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

放課後時間

【著者名】

岩崎星空羅

【ノード】

N7752E

【あらすじ】

伝えたくて、嫌われたくないで伝えられなかつた想いがある

俺、中川

翔と道瀬

麗心^{れいん}は家が隣同士の幼馴染。

分かつていた。
所詮は幼馴染であり、それ以上でもそれ以下でもないことを。

小さい頃までは一人仲良くしていた。

だけど、学年が上がっていくにつれて、麗心は俺から次第に距離を置くようになってきた。

そんな事が起こつてからだらうか。

俺は麗心と一緒にいたいと思つ。

けれどそつと思えば思うほど、麗心は俺から離れていく。

いつものことだった。

明日までに出された課題を家でやるのは億劫だから学校でやつていいつと思つて

一人で課題を解いていた。

という扉が開く音とともに、麗心が入ってくる。教室に俺しかいないことが分かると入ってきたのにまた出て行こうとする。

「ちよ、待てよ。」

そういうと、片足が既に教室外に出た麗心は足を止め、こっちを見ないけれど。

「な、何か用？」
「何で…」

俺のことを避けるんだよ

勇気を出した。
理由が知りたかった。

きっとそれは、“幼馴染”だからだけじゃないと思うような気がする。

何が気に入らないのかを聞いて、変わりたい。

「そんなの、中川君の被害妄想じゃない?」

「それだけ言つて、また出て行つた。だから思わず手首を掴む。

一瞬肩がビクッと動く。

「やめてよー離してよー先生呼ぶよー?」

「言えよ…理由」

力を入れないよう注意を払いながら、せつと囁く。さつきまで暴れていた麗心も落ち着く。

「私なんかに構わないでよ」

「はッ! ?何言つてんだよ! 幼馴染だろ」

「だからッ……」

幼馴染だから……

わけが…分からない。

何で幼馴染だから避けるんだよ。

「幼馴染だから…何だよ…」

「中川君は…だつて…」

虹は…

翔つて呼んでいたのに、ランクが下がるよつな気がする。
遠い存在みたいに。

「中川君の隣にいるの…辛い…」

その言葉に掴んでいた手が離れる。
辛い、俺といるのが辛い。

「やつか。じゃあ、」めんな。引き止めて

俺自身振り返り、かばんを取つて早く帰りたかった。
最悪だつた。

「ま、待つて…違つ…つー誤解しないで…」

いきなり後ろに、麗心がくつつく。とこつか、抱きしめられた。

「ちよ、お前何やってんだよ」

「ゴメン…違つ…。だって、幼馴染つて…意識しちつて…。お願
い離れていかないで…」

「…しね？」

「…いつが俺を？」

「そつか。サンキュ。じゃ、送つてくよ」

「へ、返事は…っ？」

「…」

後ろの密着度がどんどん減り、離された時、手を差し伸べる。
俯いていた麗心が顔をぱつと向けて笑顔で手を握り返す。

「ありがと、翔つ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7752e/>

放課後時間

2010年10月28日04時20分発行